

教諭(技術・家庭科) 永田恵里子

PTA新聞(弁当の日に関する記事)

十月十日は「梅中食育の日」
子どもが作る梅中・弁当の日

梅林

梅林中では、毎月10日を「梅中食育の日」として、生徒が自分たちで作った弁当を先生や保護者に食べてもらうという行事を行っています。この行事を通じて、食育の大切さや、食の大切さ、料理のアイデア等を家庭や地域に伝えてもらっています。

「食」については、家庭の協力が不可欠です。そこで、PTAだより等の広報活動や厚生委員さんによるレシピ集(冷蔵庫にある食材で手軽に作れると評判です)作成などを通して、本校の取組の様子や食の大切さ、料理のアイデア等を家庭や地域に伝えてもらっています。



食育レシピ集『キッチンごはん』

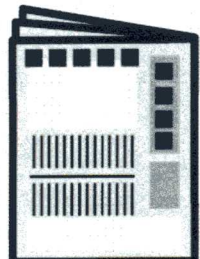
食育は、飽食の時代に生まれ育った生徒たちが、改めてあるいは初めて食べることをしっかり見つめたり考えたりするチャンスとなる。生徒にとって、「梅中弁当の日」に早起きして弁当を作ることは大変であるが、その中で今まで何となく手に入っていた弁当のありがたさや、作ってくれていた人々のすごさに気づく。また、回数を重ねると、米をといでおいたり、前日に何をしていたら当日の朝慌てずにすむか、手順や技を見つけ出す。一品一品のおかずの時間や工夫に気づく。弁当の彩りや季節の食材や旬の味で先人の知恵に感銘する。友と交換し食べて「おいしい！」と言われることの嬉しさや、作ることの喜びも知る。最後には、自分が料理を少しできるようになっていることに気づき、自分を素敵に感じる。

食バザーを通し、多くの人に作った食べ物を売る責任感や衛生管理の大切さを学ぶ。友人たちとの協力や達成感も得る。日々(給食の時間を含む)、多くの先生たちの様々な角度から行われる食育により、日本人が使う「いただきます。」の深い意味にこめられている、食べられること、食べさせてもらえることの幸せ、食べつないできた自分の命の尊さにまでつながることを知る。食育によって、将来を担う子どもたちが、自分の体の全てをつかさどるのは食べ物だということを学び、将来、食を通した生活を面倒くさがらずに楽しむ心と、毎日の食事を支える技を身につけることができたなら、きっと豊かな人生となる。

梅中の食育は、校長先生をはじめ、多くの先生方や保護者、地域の方々のご理解とご協力により行われており、梅林中の生徒たちの持つアイデアは無限であった。生徒たちは、食べることを学ぶことが実はとても好きである。「少しこわれた玉子焼きとご飯だけ。」と照れながらも自分一人で作ったという自信で輝いていた生徒の目は、輝く未来をしっかりと見つめていた。

改めて食育は大切であると痛感させられ、感動をもらった梅林中での日々に感謝している。
(平成20年度勤務)

新聞記事



読売新聞
平成20年6月26日
(朝刊)

生徒自ら献立作り

福岡・梅林中

福岡市南区の梅林中(田村校長、34歳)で、10月10日「弁当の日」が行われた。完全給食が実施されている同校で、全校を挙げて定期的に取り組んでいるのは同校を始めて2年。梅林中では事前に献立を考案し、授業時間について深く学習し、作り手と作り手でない生徒が協力して作る。作り手と作り手でない生徒が協力して作る。

これらの記事・写真等は、読売新聞社と西日本新聞社の許諾を得て転載しています。

梅林中は、昨年度の学期から毎学期に1度実施する「弁当の日」について、自ら考案した献立を、先生や保護者に食べてもらうという行事を行っています。この行事を通じて、食育の大切さや、食の大切さ、料理のアイデア等を家庭や地域に伝えてもらっています。

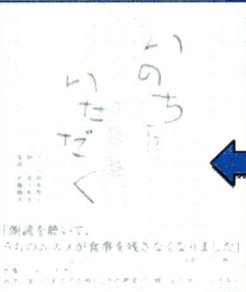
毎学期に1度実施 食生活改善 ■ 親子で会話も

食への感謝 反響広がる

西日本新聞
平成22年1月17日
(朝刊)

福岡・梅林中 読み聞かせ 考えるきっかけづくり

「いただきます」を中学生や小学生の読み聞かせの時間に行うことで、食育の大切さを伝えることができました。感謝と命ある食べ物を大切にいただく気持ちを持ち続けてほしいものです。



ふだん、当たり前のように食べている食肉が、私たちの口に運ばれるまでのことが書かれた絵本です。朝の「読み聞かせ」の時間に、ボランティアの方が読んでくださいました。尊い牛の命、畜産者の思いを生徒たちはじっと真剣に聞き入っていました。感謝と命ある食べ物を大切にいただく気持ちを持ち続けてほしいものです。